

○中村 薫・福元孝一・明石良<sup>1)</sup>

(宮崎総農試・<sup>1)</sup> 宮大フロンティア科実総セ)

【目的】スイートピーは宮崎県の特産花きであるが、その栽培において葉柄の先にある巻きひげと葉腋に発生する腋芽を摘除せねばならず、多大な労力が必要とされている。今回、生産者の経営における費用や労働力そして育成される品種の意向を把握するためにアンケートを行い、その結果を検討したので報告する。

【材料及び方法】アンケートは宮崎県内6地域のJAスイートピー部会の生産者を対象（経営主および経営に参画している家族）とした。調査時期は2009年2月～3月とし、生産者が出荷場等で集まる際にアンケートを配布し、直接またはファックスで回答して頂いた。設問は以下の9項目である。1) 性別、2) 経営主か家族か、3) スイートピー栽培面積、4) スイートピー栽培に従事する家族の人数および雇用者数、5) 最も注意する経費の種類（8項目から択一）、6) 最も労力がかかると思われる作業項目（10項目から択一）、7) 巻きひげは栽培上必要か（必要から不要まで5段階で）、8) 省力と考えられる「無巻きひげ」品種を作付けするか（するからしないまで5段階）、9) 品種に望ましいと考えられる形質は何か（9項目から3項目選択）。

【結果および考察】各設問において無回答のもの、択一の設問に複数項目解答のものは無回答として処理した。アンケートは97の農家へ配布し、78部回収した。回答者中、経営主は46人で家族は32人であり、経営主としての回収率は47.4%であった。性別は男性48人、女性30人であった。経営者に含まれる男性は41人、女性は5人であった。スイートピーの栽培面積は4a～60aであった。男性の経営主の栽培面積は平均が18.8aであるのに対し、女性の経営主は平均が5.8aと男性に比べ面積が小さかった。経営主における栽培面積と従事者数（家族人数と雇用者数の和）は正の有意な相関を示した（図1）。経営主あたりの平均従事者数は5.6人で、10aあたりの平均従事者数は3.5人であった。最も注意する経費は経営主・家族とも雇用費で、ついで出荷経費であった。被雇用者を持たない経営主では出荷経費の割合が最も高く、次いで燃料

費であった。被雇用者を持つ経営主は雇用費の割合が最も高く、雇用の有無で意識する費目が異なることが明らかとなった。最も労力がかかると思われる作業は全体では誘引、ついでつる下げであった。しかしながら、このことは経営主と家族では異なり、経営主ではつる下げが最も高く次いで誘引であるのに対し、家族では誘引が高く次点は出荷調整であった。これはつる下げ作業は花梗の曲がりを招きやすく、収益に大きく影響するため、経営主が行うことが多いためと考えられた。

巻きひげの要不要は、どちらでもかまわないという意見が38.5%を占め、必要・不要とも同程度の割合であった。「無巻きひげ」品種の作付けに対しては「どちらかという作付け」を含め「作付け」とする意見が50%で、「どちらかという作付けしない」を含め「作付けしない」とする意見より多かった。

品種に望ましい形質では高収量、高規格、高品質、安定した収量の4項目が他の項目に比べ際だって高く、省力はわずかであった（表1）。

これらのことから、スイートピー生産者にとって巻きひげ取りを含む誘引作業やつる下げ作業は労力がかかる作業であること、雇用をかかえる経営主にとって雇用費が最も気になる経費であることが明らかになった。しかしながら、望ましい品種の形質では収量が多く安定し、品質が高い品種であり、品種に対して経費の削減より収益の増加を期待していることが明らかになった。

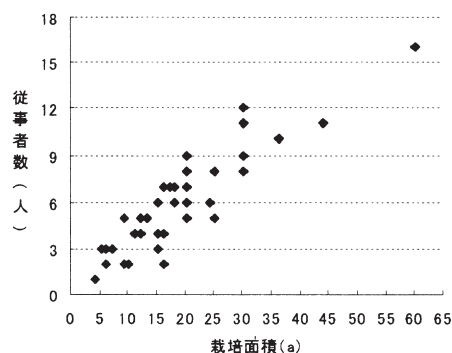


図1 経営面積別従事者数

表1 望ましいと思われる品種の形質<sup>2)</sup>

項目	安定した収量	高品質	高規格	高収量	オリジナル花色	香りなど付加価値	省力	珍奇な花姿	その他	無回答
度数	57	50	45	44	16	3	3	3	0	13

<sup>2)</sup>9項目から3項目選択. N=234